

太田 小三郎

生年 弘化二年 〽 没年 大正五年



太田小三郎肖像画

太田小三郎は、伊勢の町の近代化に貢献した人物です。

弘化二年（一八四五）、豊前国田川郡彦山（現在の福岡県東部と大分県北部にわたる地域）に鷹羽寿一郎の三男として生まれました。

明治五年（一八七二）に、伊勢の山田に移住し、

古市の妓楼「備前屋」を営む太田家の養子に迎えられました。

その後、備前屋の最後の主人となった小三郎は、明治政府が伊勢神宮を頂点とする神社体系を確立する中で、神宮宮域周辺の整備を目指し、同十九年（一八八六）に民間団体「神苑会」を創立しました。

神苑会は、神宮神苑の整備や二見ヶ浦に賓日館（重要文化財）、外宮と内宮の間にある倉田山に徴古館（登録有形文化財）・農業館（登録有形文化財）を建設するなど様々な事業を行いました。

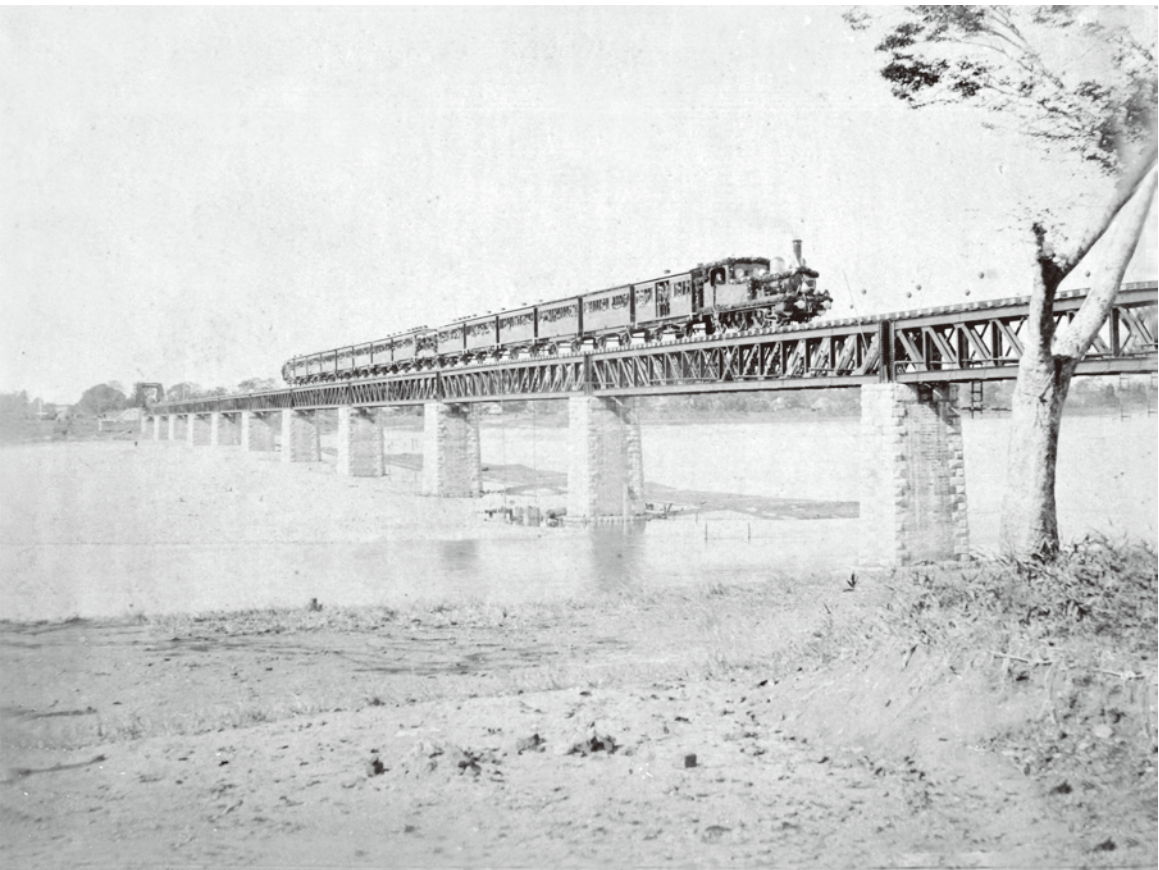
小三郎は実業家としても活躍します。明治二十三年（一八九〇）には、参宮鉄道株式会社を創立し、津から山田間に鉄道を敷設しました。また、



建設当初の神宮徴古館（神宮徴古館所蔵資料より）

宮川電気株式会社（後の三重合同電気株式会社）や山田銀行を創立し、電力開発や金融の強化など、伊勢の近代化に大きな功績を残しました。

大正五年（一九一六）九月五日、七十二歳（数え年）でこの世を去りました。昭和十年（一九三五）には、小三郎の功績を称え、本案内板後方にある「太田小三郎君紀功碑」が有志等により建立されました。



参宮線宮川橋梁上の汽車（明治30年（1897）架橋）

令和元年七月

伊勢市教育委員会